

toVO トゲネ
PLUS

www.tovo2011.com

SEASON 4

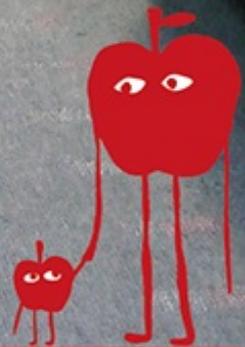
No.046 - 100号まで、残り54家族、54ヶ月



NO. **046**

20160111

あおもりの100家族、わたしたちのこれから。





今号（47家族目）のご家族▶
田中哲也さん・忠司さん・ていさん

撮影場所▶東津軽郡今別町大川平

【インタビュー】

●2011年3月11日のこと、憶えていますか？

▶哲也さん「下りの東北新幹線で仙台に向かっていて、福島駅に停車中に地震が起きたんだ。当時は札幌在住で、その日は打ち合わせイベントがあって、羽田経由で大宮に入り、次が仙台だったの。すごい揺れで、

駅舎ごと倒れるかと思ったぐらい。車内は悲鳴だらけ。その後全員降車させられて、JRは『手に負えない、どうすることもできない』というばかり。電話はつながらないし、駅を出て目に入ったコンビニに向かったんだけど、自分は義足に半ズボンで、荷物を引いて歩いていて目立ったのか、手を貸してくれる人もいた。『近くの小学校が避難所になっている』と声をかけてくれた人がいて、一緒に行ったんだ。小学校にどんどん人が増えながらも状況がつかめない中で、20時ぐらいかな、電気がついたの。自分がいた教室だけテレビがあって、それで事態が分かった。」

▶ていさん「私は家にいた。大きい地震だったよ。停電したので、その日はガスでご飯を炊いたと思う。うちは薪ストーブだったので、向かいの奥さんが暖をとりに来たりしたね。」

▶忠司さん「牛の競りで仲間と七戸の市場に行った帰りだった。みちのく有料道路を降りて、青森市沖館のフェリーふ頭の近くを走っていて、『地震だ』と思って、車を止めた。少しして大丈夫かなと思ってまた走り出して。」

▶哲也さん「自分がいた避難所に支援物資が届いたのは次の日かな。携帯もときどきつながるようになって、それで今別の実家にも電話した。余震がすごかったね。揺れるとみんなすぐ外に出ようとしてたけど、自分は疲れて義足を外して寝たりしていたから。避難所には新幹線に乗っていた人が多数いて、当初はJRがバス代行するという話があったけど、原発事故が起きてバスのやりくりがつかなくなり、それもなくなった。『車で迎えに行く』と言ってくれた友達もいたけど、ガソリンの問題があったりして。そうこうするうちに、航空会社にいる友達から、『福島空港が動く。札幌便が増便になる』と連絡が入り、避難所から乗り合いタクシーで空港に行き、飛行機で札幌に帰った。それが13日のこと。」

●その後、心境や生活に変化はありましたか？

▶ていさん「ここは海まで約2キロ、家の裏には川が流れてる。津波が来たり地震が来たりしたら、高台の道路に逃げようという話はしたね。」

▶忠司さん「町でも避難訓練や、水を配給する訓練をしたりしたよな。」

▶哲也さん「自分は避難所にいた2日間で、人生を振り返れた。あの前月に40歳になったばかり。（哲也さんは元パラリンピック・アルペンスキー日本代表）自分は20代で長野、30代でソルトレ

ークに行って、40代でまた目標を持ってもいいかなと。津波で多くのものが流される映像を見て、もう一度何かにチャレンジしようと思った。もともとトレーニングで乗っていた自転車で、本格的にレースに出て、その年に日本パラサイクリング選手権で優勝、アジアオセアニア選手権で日本新記録を出し、2012年2月のUCIパラサイクリング世界選手権ロサンゼルス大会に日本代表として出場した。『そろそろ今別に帰ろうかな』と思ったのもそのころ。祖父の代からの牛の繁殖農家を継ぎたくて。19歳で交通事故で右足を失ったときは、牛の世話なんてできるわけもないし、やらないと思っていた。でも、いろいろな活動を経て自信がつき、『そろそろ帰って牛をやろうかな』と思えたんだ。」

●10年後のイメージは？

▶ていさん「いまでもあの世に行くんじゃないかと思ってるのに、10年後なんて(笑)。北海道新幹線開業で、今別がどんなふうにならっていくのかも分からないし...。」

▶忠司さん「自分はずっと同じところにいるから、『今別は良いところ』と言われてもよく分からなくて(笑)。」

▶哲也さん「いまと変わらず牛飼いでいるだろうな。あと、自分がいままでやってきたスポーツで、役に立ってるものがあればと思っている。来年7月、自分が実行委員長を務めて今別で自転車の大会を開催するので、それが10年後には第10回を迎えているといいな。」

【取材後記】1998年に哲也さんが長野パラリンピック・アルペンスキーに日本代表として出場したとき、哲也さんにご両親を取材させていただいたことがありました。哲也さんとは同い年のよしみで連絡を取り合ってきましたが、ご両親とは今回が実に17年ぶりの再会。古い縁がいままた巡ってきたことに、感慨をおぼえます。震災を経て、変わったものも変わらないものも、日々受け止めて生きる입니다。(今号No.046の撮影とインタビュー担当者：前田ふひと)

【寄付総額】2011年6月～2015年12月31日まで「¥3,911,412」を、あしなが育英会「あしなが東日本大震災遺児支援募金」へ寄付することができました。ご支援に深く感謝致します。

【定期購読のご協力を!】1年間の定期購読を承ります。1,800円(送料・寄付含)／1年間(12号)です。このフリーペーパーは定期購読の皆様のご支援で発行されております。ご支援の程、宜しくお願い致します。ご希望の方は、ウェブショップ (<http://shop.tovo2011.com>) よりお申し込みください。